

# 野外観察での注意

## ● 関連単元 ●

身のまわりの生物を観察しよう

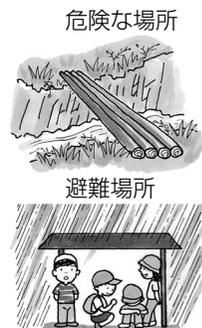
- 1 植物のくらしとなかま
- 2 動物のくらしとなかま
- 7 自然と人間

## 事故防止と観察を支障なく進めるために

### 1

#### 場所選定の注意点

- 観察の目的を達成するのに適した場所であるかどうかを確認する。  
 ⇨事故要因のない場所を原則とする。  
 ⇨観察する人数がゆとりをもって活動できる広さがある。
- 観察場所に危険な場所はないか、危険な動物がいないか、危険な植物が生えていないか等を確認する。
- 天候急変時の緊急避難場所の有無を確認する。
- 付近のトイレの有無を確認する。
- 観察場所の所有者を確認する。  
 ⇨私有地なら所有者と連絡を取り、<sup>かつ</sup>公有地なら管轄の役所に使用許可をもらう。



### 2

#### 計画立案での注意点

- 観察の目的、方法、準備等は生徒一人ひとりに主体的に考えさせて計画立案させる。
- 安全に要領よく確かな観察ができるように事前指導を十分する。  
 ⇨観察のしかた、採集のしかた、記録のとり方、用具の使い方等。  
 ⇨危険な場所、危険な生物についての注意事項をまとめた配付用資料を作成し、それに基づいての安全面の指導。  
 ⇨生徒主体で現地で活動するときの約束事を決めておく。
- 学校から観察場所までの道順と所要時間を確認する。
- 観察時間は、生徒が余裕を持って行動できるように計画する。
- 非常時の連絡方法を確認する。

### 3

#### 持参物の注意点

- 観察に持参する用具は、目的に応じて必要最小限なものに絞る。
- 持参する救急バッグ（箱）に、必要な薬品・用品がそろっているか点検しておく。



最寄りの医療機関、公共施設などを登録しておく。



### 4

#### 服装の注意点

〈山や草原の場合〉

- 履き慣れた運動靴、厚い靴下、長袖の服、長ズボン、作業用手袋、帽子という服装がよい。  
 ⇨半袖の服、半ズボンという服装では、毒草によるかぶれや木々による擦り傷、吸血動物の吸着などの被害が予想されるので着用させない。

〈川や池の場合〉

- 長袖の服、長ズボン（水に入る場合は半ズボン）がよい。
- 履き物は、水に入らない場合はふだんの運動靴でよいが、水に入るときは、靴底に凹凸がある滑りにくい運動靴がよい。この場合、ぬれるので替えの靴を持っていく。  
 ⇨サンダルは脱げやすく、滑りやすいのでよくない。

# 野外観察での注意

## よく観察をするために

### 1 しっかりした計画を立てる。

- 観察の目的をはっきりさせる。  
⇒何をしにどのような場所に行くのか。
- 目的、場所に応じた準備をする。  
⇒採集するときは、採集物に合う容器を準備するなど。
- 観察のしかた、採集のしかた、記録のとり方などについて、事前学習をしっかりとしておく。
- 現地で活動するときの約束事を決める。  
⇒集合時間を守る。  
⇒採集は必要最小限にする。  
⇒観察や採集のために穴を掘るなどしたときは、必ず掘った穴を埋めもどしておく。  
⇒決められた場所で活動する。  
⇒単独行動をしない。



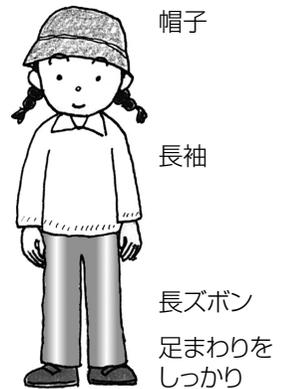
### 2 服装に注意する。

〈山や野原に行くとき〉

- 服装は、長袖の服に長ズボンをはき、帽子をかぶる。  
足まわりは、厚い靴下にはきなれた運動靴をはく。
- 作業用手袋も持って行く。

〈川や池に行くとき〉

- 服装は野原に行くときのものと同変わらないが、水に入るときは、半ズボンをはき、底にでこぼこがあってすべりにくい運動靴をはく。  
⇒サンダルはぬげやすく、すべてあぶない。



### 3 安全に注意する。

- 危険な動物や植物に気をつける。  
⇒わからないものや疑わしいものをむやみに口に入れたり、採集したりしない。
- 危険な場所（がけ、岩場、川・池などの深み等）には近づかない。
- 草原などで、ふざけてむやみに走りまわったりしない。隠れた石などにつまずいて転倒してけがをするおそれがある。

ウルシ、ハチ、ヘビなどの危険な生物

